

3 創造性

視点⑥ 発想

遊びを生み出す時の発想、遊びが順調に進まない物足りなさ(停滞)を感じて「こうしたら面白くなる！」と思いついた時の発想など、子どもたちは日々“ひらめき”とも言えるたくさんの発想をしています。その発想や考えは言動に現れ、同じ思いで遊ぶ友達と共有されます。発想や考えを実現しようとする際に生じる問題や疑問を、解消しようとする意欲的な子どもたちは、「科学する心」が育まれる豊かな体験をします。

以下の事例では、新聞紙を丸める遊びから、その棒(剣)を使って様々な形を作る遊びが始まり、更に、その形が平面から立体になる考えが出てきたことで、「テントスカイツリー」を作ろうという新しい発想が生まれています。このように、新しい発想が出てくる時、「科学する心」が育まれる体験を捉えることができます。

「見て！三角になった」 5歳児

学校法人ポーロニア学園 みずき野幼稚園

自由な遊びを楽しむ中で、新聞紙や広告を丸めて剣作りをする子どもたちがいる。より細くて堅い剣を作ることにこだわる子どもや作った剣の数を競う子ども、長い剣を作る子どもなど遊びは様々である。

新聞紙
端から丸め、棒
にする



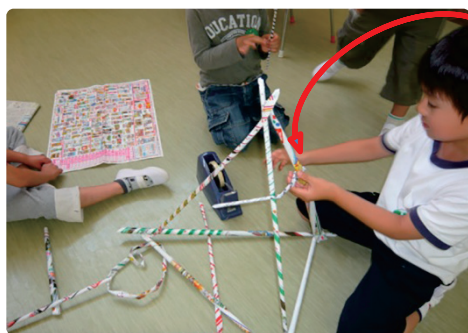
転入してきたA児とB児が剣作りをし、数を競っている。その遊びに加わったC児が「見て、三角になった」と、**剣を組み合わせて形を作る(新たな発想の遊び)**。その様子を見ていたD児が「ここにもう一本剣を足せば、立つよ！あと、ここにも」と**アドバイスをする(新たな発想の提案)**。D児の提案によって平面だった三角形が立体へと変化していく。



A児とC児は、**剣が違う形の物になったことに驚いていた。**

D児は4歳の時に作ったテントツリーのことを思い出す。

剣が三角の立体になり、A児たちは「お家の屋根みたい」「そういえば、この間スカイツリー見に行ったんだけど、上の所に似てる」などと、身近な物に見立てる。そして、共感したC児は「うん、スカイツリーの上の所に似てるね！じゃあ、これでスカイツリー作ろうよ！」と、**新たな遊びを発想して話し合う**。4歳の時に作った遊びを思い出し「もう1回、テントツリー作ろうよ！」「もっと大きい物にしたかった」「友達がもっと入れたら楽しい」と言う子どもたちがいる。みんなで話し合い、「テントツリーとスカイツリーを合体して、テントスカイツリーを作ろう！」ということになる。自分たちで**自由にイメージや考えを表し**「テントスカイツリー」を作る遊びが展開する。



「こういう所に、剣を付けると丈夫になるんだよ」

「あ、知ってる。僕もやる」

「ねえ、剣が足りない！」

「私たちが剣を作ってあげる」

などと、**大きく丈夫にするための考えを表し**、やりとりをしながら作る。

付けようとする所を押さえていないと、自分で作った剣が付けられなくなるため、周りの子に助けを求めたり助けたりする。興味をもち、遊びに加わる子どもが増えていく。

(関連事例P.14)